

米倉教公の週間為替市場見通し

2/1 日週号

『米3月利上げを見極める週』

ドル/円予想レンジ 118.60 - 123.50 円

■前週の市場動向

ドル/円は、21日のECB定例理事会開催後の記者会見でドラギECB総裁が『3月に政策姿勢を再検討する必要がある』との追加緩和を示唆したことが反転の切っ掛けとなり、日本銀行による追加緩和観測も高まった。さらに原油価格の下落が一服したことも反転要因となった。26-27日のFOMCでは金利据え置きとなったが、声明文の内容が市場の期待ほどハト派的ではなかったことから、ドル/円は底固めの動きとなり徐々に下値を切り上げる展開となった。市場では日銀金融政策決定会合に向けて、追加緩和の催促相場となり、現状維持ならば失望によるドル売り・株売りの様相が強めた。一方で、黒田バズーカ砲は第3弾で打ち止めではないかとの思惑もあり、非常に難しい展開となった。日頃から黒田日銀総裁の発言では、『マイナス金利導入に関しては否定的』な見方だった。しかし、日銀がそのマイナス金利導入を決定したことで、ドルは一旦買われたものの、200日線まで到達後ワンタッチで売られる展開となった。しかし、資産買入れ増額という『実弾を温存』したことで、まだバズーカ砲が撃てることから再びドル買い・円売りが再燃した。

■今週の注目点：中国製造業や米1月雇用統計など重要経済指標に注目

中国では1日に1月製造業PMI/非製造業PMIが発表される。改めて中国の景気減速の深刻さが確認されると、前週までのリスク選好で上昇した巻き戻しに警戒。ただ、懸念ほど悪化しなければ、リスク選好の動きが継続される。5日の米雇用統計では、暖冬が住宅や建設部門などの下支えになっている。また賃金についても、前年までの反動から小売・外食・自動車などの賃上げの動きが伸び悩みに歯止めがかかる可能性もある。雇用者数は12月実績を下回る見込みだが、20万人程度ならFRBの利上げ継続が維持される。



★先週の気になる出来事

黒田日銀総裁はマイナス金利導入に関して21日も否定していたはずなのに導入するとはサプライズ。29日日経新聞の3面でマイナス金利導入をやるとは言及していないが、「銀行が日銀にお金を預けた際に受け取る金をゼロ近くやマイナスに引き下げるなど、新しい枠組みを打ち出すとの見方もある。」と掲載している。これって誰かがリークしないと書けないんじゃないの？今は昔、終わったことは仕方ないが、カッコに関係筋と書いて欲しかった。。

■テクニカル的な見解

1月26日付のシカゴIMM投機筋の対米ドルの差し引き持ち高で、円は前週の+37,653から+50,026へと円の買い持ちが4週連続となり、2012年2月以来最大となった。それだけに、サプライズとなった日銀のマイナス金利導入で相当のロスカットによるドルの買い戻しが入ったことが予想される。上値を200日移動平均線の121.473円が押さえていて、上値抜けできないで週末を終了している。米雇用統計公表週は、円安になることが多くあり、週初から株高・原油高が継続するようなら上値トライとなる。しかし、雇用統計発表時が円安のピークとなることもあり注意が必要。今後12月18日の日銀金融政策決定会合の高値123.57円が次の上値目途となる。上値抜け出来ないと上値切り下げとなるので注意。下値では一目均衡表転換線・基準線の118.82円や25日移動平均線の118.62円が下値目処。

本レポートについての注意事項は巻末をご覧ください。必ずご確認ください。

金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第 1614 号

商品先物取引業者：農林水産省指令 22 総合第 1351 号,経済産業省平成 22・12・22 商第 6 号

加入協会：日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会、

■くりっく 365 の売買手数料は 1 枚当たり最大でインターネットスタンダードコースが片道 0 円 (税込)、インターネットプレミアムコースが片道 648 円 (税込)、コンサルタント取引 (対面取引) コース及びコンサルタント取引 (対面取引) オンライン併用コースが片道 1,080 円 (税込) です。

■くりっく 365 における証拠金の額は、株式会社東京金融取引所が定める為替証拠金基準額で、原則週次で見直されます。その額は通貨ペアによって異なり、個人のお客様の場合最大で約 25 倍のお取引が可能です。

【くりっく 365－為替証拠金基準額の算出方法】

金融先物取引所が定める為替証拠金基準額は以下の計算式に基づき、算出致します。

計算式：為替証拠金基準額＝取引単位 (元本金額) ×4%× (5 取引日の為替清算価格平均値)

■「くりっく 365」には、以下のリスクがあります。

【価格変動リスク】

くりっく 365 は、取引する通貨の価格の変動に伴い差損が生じる場合があります、元本や収益が保証されるものではありません。建玉を維持するために追加で証拠金を差し入れる必要が生ずる場合があります。また、差入証拠金以上の損失が生ずる場合があります。

【レバレッジリスク】

くりっく 365 は、取引の額が預託された証拠金に比して大きくなるため、価格変動リスクその他のリスクがその比率に応じて増幅されます。レバレッジにより、その取引について必要となる証拠金の最大 2.5 倍までのお取引を行うことができます。

【信用リスク】

当社は、東京金融取引所を相手方とした「清算制度」に参加しており、お客様の証拠金は、全額取引所が区分管理しているため、原則として全て保全されています。しかし、当社の信用状況の変化等により支払いが滞ったり、破綻した場合には、返還手続きが完了するまでの間に時間がかかったり、その他不測の損失を被る可能性があります。

【システム障害リスク】

当社及び東京金融取引所のシステム、又はお客様、インターネット業者、東京金融取引所の間を結ぶ通信回線等に障害が発生した場合には、相場情報等の配信、発注・執行等が遅延したり、不可能になることがあり、その結果、不測の損失が発生する可能性があります。

【税制・法律等の変更リスク】

税制・法律又はその解釈等が将来変更され、実質的に不利益な影響を受ける可能性があります。

【金利変動リスク】

取引対象である通貨の金利が変動すること等により、保有するポジションのスワップポイントの受取額が減少、又は支払額が増加する可能性があります。ポジションを構成する2国間の金利水準が逆転した場合等には、それまでスワップポイントを受け取っていたポジションで支払いが発生する可能性もあります。また、一部の通貨においては、外国為替市場における当該通貨の需給関係等の影響を受けて、金利変動によらずにスワップポイントの増減や支払いの逆転が生じたり、場合によっては、金利の高い方の通貨の買いポジションでスワップポイントの支払いが生じる可能性があります。

【流動性リスク】

くりっく 365 で提示する為替レートには価格差（スプレッド）があります。くりっく 365 では、マーケットメイカーが買呼値及び売呼値を提示し、それに対してお客様が注文を発注して取引が成立する方式を取っています。状況（天変地異、戦争、政変あるいは為替相場の激変等）によって、マーケットメイカーによる買呼値や売呼値の安定的、連続的な提示が不可能または困難となることがあり、その結果、想定する価格で取引ができないなど、お客様にとって不測の損失が生じる可能性があります。また、一部の通貨において母国市場等の休業の場合には臨時に休場することがあります。更に、当該国の為替政策・規制による他通貨との交換停止や外国為替市場の閉鎖の措置がなされるなどの特殊な状況が生じた場合には、特定の通貨ペアの取引が不能となる可能性もあります。なお、平常時においても流動性の低い通貨の取引を行う場合には、希望する価格での取引ができないなどの不利益を被る可能性があります。

【コンバージョンリスク】

クロスカレンシー取引においては、決済が当該通貨ではなく円貨でなされることから、決済時に当該通貨の為替リスクの他に円との為替リスクがあります。

【ロスカットのリスク】

相場の変動により、有効比率が当社の定める基準以下となったことを当社が確認した場合、お客様の意思に関わらず、当社はおお客様の全ての未約定注文の取消及び全ての建玉の決済注文（ロスカット注文）の発注を行います。

ロスカットの場合でも、相場の急激な変動により損失の額が差し入れた証拠金の額を上回る可能性があります。

【情報リスク】

当社からご提供させていただく情報は、くりっく 365 の取引の参考としていただく資料です。その記載情報は、信頼性、正確性、完全性において保証されるものではありません。また、情報内容も予告なしに変更することもあります。

【その他】

取引所為替証拠金取引の売買は、クーリング・オフの対象とはなりません。取引所為替証拠金取引に関しましては、金融商品取引法第 37 条の 6 の規定の適用対象とはなりませんので、ご注意ください。

※くりっく 365 は、株式会社東京金融取引所の登録商標です。